

介護度と対応できる住まいと準備

介護状況	自分の状況	対応できる居住型の住まい
自立	生活上身体に問題ない。	自宅で先を見据えたバリアフリー化や早めの老朽化対策、不用品の整理処分や重要書類の整理などできることを行う。
要支援 1～2	膝や腰などに痛みや違和感も日常生活に不安が出てくる、手助けが必要な場面もある。公共交通機関などに乗り外出もできるが、階段など身体的に厳しい場面がある。	自宅やサービス付き高齢者向け住宅、ケアハウスで、ほぼ自立した生活が送れる。万が一に備え、見守り等の支援がある住宅の検討を行う。
要介護 1～2	ヘルパーさんや福祉用具を活用すれば、不安はあるが生活できる。公共交通機関などの乗り降りに手助けが必要な場面がある	自宅を介護仕様に改修したり、ケアマネさんと相談して適切な介護サービスを活用。住宅型や介護付き有料老人ホームの入居の選択肢もある。
要介護 3	ヘルパーさんや福祉用具を活用し、デイサービスなどに通い、なんとか生活できる。	特別養護老人ホームに入居できる介護度であり、民間の介護付きや住宅型有料老人ホームの検討時を行う。
要介護 4～5	夜間介護が必要になる介護度、医療対応がある場面がでてくることもある。	24時間対応できる特別養護老人ホームや介護医療院、民間の介護付き有料老人ホームなどの検討を行う。